

(1) 出題方針

2024年度の国語の出題は、全ての日程で現代文一題、古文一題の形式で出題した。現代文・古文ともに、文章を読んで選択肢で解答する設問が5～6問と、記述式の設問が1問である。記述式は現代文が40字、古文が30字で答える形式となっている。配点は現代文が90点、古文が60点であり、試験時間は75分である。これらの構成は、例年ほぼ同じものである。

現代文は、いずれの日程でも論説の文章から出題しており、例年の傾向を踏まえている。論説で取り上げる素材は、文学・文化・芸術・社会学・自然科学など多岐にわたる。文章の長さは、6000字から7000字程度のもので、比較的長文といえる。

大学では、専門的な学術研究を行うために基本的な読解力を身につける必要がある。大学での学びは、定められた教科書の学習ではなく、多くの分野の文献を読み、それらを理解し、まとめて、自分の研究に活かす形をとることが求められる。そのためには文章の分野を問わず、さまざまな文献から情報を吸収できる素地が必要となる。したがって、比較的長文の読解を通して、その力量を判定したいと考えている。長文の文章全体からの確に文脈を読み取る能力や、反対に細部の意味を把握する能力を確かめたい。

古文は、上代から近世までの文献から、説話・物語・随筆・日記などのさまざまな分野から出題している。文章の長さは、800字～1200字程度である。著名でないものからの出題もあるが、内容は明確なものを選んでおり、難問にならないよう十分に配慮している。

大学では、各分野の研究において古典的な文献の読解も求められる。その意味で古文の読解力は、大学での学術研究においても必要なものといえる。そのための能力を、高校における古文の学習を通して身につけているかを確認することが、古文を出題する目的である。

現代文・古文ともに、語句の表現や文脈を正しく理解しているか問うことを重視している。選択肢の設問では、語句の知識を踏まえて、文脈の要点となる箇所を質問している。記述式の設問では、文章全体を的確にまとめ文章化することを求めている。

(2) 解答状況および解説

設問の順序は、おおむね、接続詞や個々の語句の理解に関わるものからはじまり、次に文章の展開を踏まえたもの、そして全体をまとめたものへと続き、最後にそれまでの設問内容を押さえつつ全体の内容をまとめる記述式設問が配列されている。このような配列は、本文の内容を適切に把握してもらうためのもので、基本的に例年同様になっている。選択肢設問では、「奇問」といわれるようなものは出題せず、的確な読解によって解答できるようにしている。2024年度入試では例年と比べて平均点がやや低かったが、文章の内容を的確に理解することで正答を導き出せる出題としたことは、例年と同様である。

現代文の設問では、接続詞の挿入などは正答率が高い。確実に文脈の続き具合を把握して解答してほしい。一方、正答率が低い傾向にあるのは、文章全体あるいは広範囲にわたる内容の要旨をまとめる設問である。論旨のポイントをしっかり押さえることが不可欠といえる。また、各日程において、文章の内容に合致するものを一つあるいは複数選ばせる設問を出題することも多い。選択肢とそれに対応する本文中の文章を十分比較検討し、的確に判断してほしい。

古文では、語句の解釈に関わる設問が出題される。辞書的な語句の意味を問う設問では正答率

は高いが、文脈を踏まえた語句の解釈を求めると正答率が落ちてしまう。基本語句の習得に加え、文脈を把握する能力も求めている。また、和歌が絡んだ設問の場合も正答率が低くなる傾向が見られる。和歌の技法も踏まえ正確に解釈する能力を養っておいてほしい。

記述式の設問では、文章全体から重要な内容を、現代文なら三つ程度、古文なら二つ程度を踏まえて、文章としてまとめあげる必要がある。目立った誤答としては、内容の一部しか含まないものや、設問の語句を単に引用しただけのもの、解答文としてまとまりがないもの、文脈がねじれてしまっているものが多い。また、誤字・脱字などの不備は、減点対象となるので注意してほしい。字数を超過しても0点にはならないが、大きな減点となる。最後に、全体的なニュアンスが合っているだけでは、高い得点には繋がらないので、特に注意してほしい。

(3) 受験生へのメッセージ

現代文では、日頃からさまざまなジャンルの文章を積極的に読み、比較的長い文章にも慣れておいてほしい。設問として出題する文章は、展開のある内容のものを選んでいる。正確に論理展開を把握できれば、全体の要旨をきちんと理解できる。文章のキーワードを見つけ出し、それをを用いて全体の要旨を40字でまとめるトレーニングは有効である。

古文では、基本的な古語・文法の意味をきちんと理解しておくことがまず大切である。なお、漢文も融合問題の一部として出題される可能性があるが、その場合、難問にならないようにきちんと配慮している。

現代文・古文とも、受験生の実力を正確に計ることができるよう、奇をてらうことなく、十分に練った設問を用意している。存分に、実力を発揮してほしい。

◆国語◆ 出題の意図

102	出題の意図
一	都市における未来のイメージについて、様々な研究者の観点をもとに論じた文章から出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、筆者が時間軸における都市についてどのように考えているか、文章化することを求めた。
二	安倍晴明が特殊な力を披露する文章から出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、どのような理由で晴明が「博士」に任じられたか、文章化することを求めた。
103	出題の意図
一	労働について、その語源や現代における意義を論じた文章から出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、労働に対する筆者の考えを読み取り、文章化することを求めた。
二	平安時代後期の説話集より、盗人が、自らの見た出来事について話す文章を出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、盗人がとった具体的な行動について文章化することを求めた。
104	出題の意図
一	公共圏について、具体的な現代の状況を踏まえて論じた文章から出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、公共圏が誕生する条件に関する筆者の考えを文章化することを求めた。
二	江戸時代の文章より、筆者が桜の木を盗んだことについて記した文章を出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、盗みを犯した筆者がどのように言い逃れたかについて、文章化することを求めた。
105	出題の意図
一	歴史学というものがどのようにして成立するかについて論じた文章から出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、筆者の考える歴史記述の態度について文章化することを求めた。
二	室町時代の説話集より、仏法を尊んだ商人が鬼神と対峙した文章を出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、商人がどのような機転をきかせて危機を脱したか、文章化することを求めた。
106	出題の意図
一	共生について、ロラン・バルトを主題に論じた文章から出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、本文で述べられている理想的な共生とはどのようなものか、文章化することを求めた。
二	鎌倉時代の物語より、唐に渡った主人公と周囲の人物それぞれの思いについて描いた場面を出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、登場人物の一人である後の思いを文章化することを求めた。

107	出題の意図
一	文化財の保存や再現について論じた文章から出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、模造品の製作過程が持つ意義について文章化することを求めた。
二	江戸時代に書かれた奇談より、旅の途上にある主人公の前に、人の言葉を理解する蜂が現れる文章を出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、蜂に対してとった主人公の具体的な行動を文章化することを求めた。